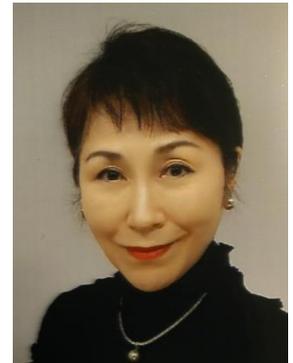


会長 ご挨拶

会長 平田 祐子



会員の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染拡大のもと、粛々とお過ごしのことと存じます。

2020年になり、全世界の人々が今までとは異なる生活様式を強いられました。その中で、皆様は「真に必要なものは何か」について考えられたのではないのでしょうか。教育機関に従事なさっている方は「教育の在り方」、企業にご勤務の方は「仕事の取り組み方」について改めて熟考なさったことと拝察いたします。今まで「通常」と思っていたことが通常ではなくなり、新たな方法を模索していく。この行為はまさに人間の為せる業なのです。

このような情勢の中、本学会の今期の全国大会は遠隔による開催となりました。実際に対面して話せないという寂しさは残りましたが、遠方から出向くことが難しい会員も参加できた、という嬉しい報告も耳にしました。本学会は、1992年にビジネス社会の国際化・情報化に対応する実務教育の必要性から誕生し、設立から毎年、時代の変化と方向性を見据えて取り組んで参りました。コロナ禍による社会情勢を真摯に捉え、良いところと悪いところを確認した上で、両者を受け入れながら生活を営むことにより、また、新たな産物が誕生するものと考えております。今年の会長就任挨拶ではAIの話の中で、これからの人間に重要なのは「人間にしか持ちえない力」と述べました。それは、人と人との間で交渉する力、アイデアを生み出す創造力、想定外の事態に対処する能力であり、今後は、ますます人間の本質的な力が問われることとなります。本学会がこのような人間の為せる業に貢献できればと願うばかりです。

これからも社会の変化に対応しながら会員の皆様方の研究促進となり、交流の場を提供できる学会を目指したく存じます。ご参加、ご協力の程、お願い申し上げます。

2019～2021 年度 役員 (2019 年改選)

(2021 年 2 月 28 日現在)

【会長】

平田祐子 (大阪国際大学短期大学部)

【副会長】

四之宮玲子 (日本大学)

藤村やよい (久留米信愛短期大学)

【常任理事】

大塚 映 (湘北短期大学)

東野國子 (近畿大学)

【理事】

兒島尚子 (大阪樟蔭女子大学)

笹瀬佐代子 (常磐短期大学)

辻 京子 (一般社団法人日本秘書協会)

福井愛美 (神戸女子短期大学)

道添栄一 (愛知学院大学)

【監事】

飯塚 淳 (科学技術振興機構)

柚木崎千春 (南九州短期大学)

(五十音順)

【事務局】

上野真由美 (名古屋女子大学短期大学部)

第29回全国大会・通常総会 オンライン開催

2020年11月7日（土）、大会テーマを「新たなグローバル社会と共感力ーコロナ禍で変化するビジネス環境への対応ー」とし、本学会初のオンライン形式で開催された。

大会委員長 ご挨拶

第29回大会委員長

笹瀬 佐代子（常磐短期大学）

日本国際秘書学会第29回全国大会は、2020年11月7日（土）、本学会初のオンラインで開催されました。

今回のテーマは「新たなグローバル社会と共感力ーコロナ禍で変化するビジネス環境への対応ー」として、COVID-19の感染拡大が加速させたビジネス環境の変化にどのように対応するべきかを考える機会となりました。

午前中は、総会が行われ、午後には冒頭に平田祐子会長のご挨拶ののち2名の新会員を含む3件の研究発表が行われました。いずれも異なる分野からのご発表で、会員の刺激となりました。

その後、常磐大学・常磐短期大学学長の富田敬子氏から今大会のテーマと関連した内容での基調講演、質疑応答が行われました。国内の企業経験後、米国の大学院に留学、国連で長年勤務した富田氏の講演では、世界の動向や多様性のある組織で仕事をするために大切なことが示唆されました。活発な質疑応答がなされ、大変充実した時間となりました。

今大会の開催に際し、ご多忙にもかかわらず全国各地からご参加をいただき、画面を通して皆様のご健在を拝見できましたことは大変ありがたく感謝申し上げます。また、大会委員を快くお引き受けくださり、従来とは異なる準備や運営に携わってくださった大会委員の皆様へ、心より感謝申し上げます。

■プログラム

研究発表Ⅰ 「新型コロナウイルス（COVID-19）による学生の生活・学習 状況等ライフスタイル変化についてのアンケートー学生300人調査から 中間報告ー」
日本大学 四之宮 玲子
座長：藤村やよい

研究発表Ⅱ 「高校教科「情報」における情報の評価の検討」
常磐短期大学 高池 宣彦
座長：辻 京子

研究発表Ⅲ 「コロナ禍の遠隔授業の進め方 ～ after コロナを見据えて」
大阪国際大学短期大学部 栗栖 美帆
座長：兒島尚子

基調講演 「海外で働くということー国連勤務から見た風景ー」
富田 敬子氏（常磐大学・常磐短期大学 学長）
講師紹介：周藤 亜矢子

ディスカッション 基調講演者 富田氏との質疑応答
コーディネーター：周藤 亜矢子

■第29回全国大会 大会委員

委員長 笹瀬 佐代子 (常磐短期大学)
副委員長 周藤 亜矢子 (宇都宮大学大学院)
委員 飯塚 淳 (科学技術振興機構)
伊勢坊 綾 (東京大学)
大塚 映 (湘北短期大学)
四之宮 玲子 (日本大学)
山本 恭子 (名古屋学芸大学)

大会テーマ：「新たなグローバル社会と共感力

ーコロナ禍で変化するビジネス環境への対応ー

基調講演

「海外で働くということ ー 国連勤務から見た風景 ー」

富田 敬子氏 (常磐大学・常磐短期大学 学長)

海外で働くということは、すなわち、異なる文化的背景、労働に対する価値・慣習を持つ人たちと共に働くことを意味します。今回は、私が長く勤務した国連という多国籍な職場での考察をもとに、日本人が国際社会の中で直面するコミュニケーション上の課題についてお話しします。

国連およびその専門機関等の国際機関で働く職員のことを、国際公務員といいます。彼らは、公僕として、世界の人々のために働くということ使命とし、自分の国籍というアイデンティティーを超えて、国際的に中立の立場から任務の遂行にあたるのが期待されています。国際公務員に求められる資質のひとつとして“Respect for Diversity”が強調されているのも、多国籍な職場では、一人ひとりの個性や文化的背景を尊重する寛容な姿勢を持つことが必然となるからです。

193カ国の加盟国出身者から構成される国連という職場では、日本社会とはやや異なるコミュニケーション能力が要求されます。日本では、常々、謙虚であれと躰けられ、日々の生活のなかで、人の気持ちを汲み、協調の姿勢を見ることが美德とされています。また、人前で、自分の考えを自分の言葉で表現することに、多くの日本人は躊躇を感じることでしょう。こうした日本人の受動的な姿勢は、国際社会において、ともすると誤解を招きやすく、人間関係においても問題を生じさせかねません。公の場での沈黙は無気力、無能と評価されてしまうからです。長年、国連で働く邦人職員の数が増加せず、また入職しても管理職としてリーダーシップを発揮できないのは、このように相容れない日本的なコミュニケーション・スタイルの違いと無関係ではないように思います。

その一方で、国連でも、日本人は協調性に富み、チームワークに親和性が高く、責任感を持って職務にあたるものの評価、認識を受けているのも事実です。今回の学会のテーマでもある「共感力」つまり、他人の意見や気持ちを汲み取りながら同調できることは、日本人が自然に身につけている能力です。国際的な職場環境でも、相手の気持ちを察し、理解してあげることで、同僚や部下の信頼を得ながら円滑な人間関係を築いている日本人を多く見かけました。

さて、新型コロナウイルス感染の収束の兆しが見えないなか、国連でも、テレワークやオンラインで会議等を開催するなど、仕事のデジタル化が一気に加速しました。しかし、ITCを活用した働き方が長期化するにつれ、コミュニケーション不足、仕事の成果の不透明さ、チームワークを醸成することの難しさといった負の側面も認識されるように

なりました。こういった、対面によらない働き方のマイナス面を補うのは、日本人が得意とするところの、洞察力、共感力ではないかと考えます。ですから、日本人にはこれまで培ってきた独自のコミュニケーション力を十分に発揮して、これからの国際社会で活躍して欲しいと願っています。

富田敬子氏ご略歴：

東京女子大学文理学部卒業。アメリカ Fordham University 大学院にて社会学博士課程修了。

1988 年、ニューヨークの国連経済社会分析局入局。バンコクの国連アジア太平洋地域経済社会委員会勤務を経て、2009 年よりニューヨークの国連経済社会局統計部次長を務めた。在職中、タイ国マヒドン大学人口社会研究所客員研究員、ボスニア・ヘルツェゴビナ国およびミャンマー国国勢調査の国際諮問委員会委員を兼任。現在も、国連国際人口移動統計専門家グループのメンバーを務める。2019 年 4 月より現職。専門は社会学・人口学。

- ・米国社会学学会 Honorable Mention Award 受賞 (2002)
- ・水戸市男女平等参画社会づくり功劳賞 受賞 (2019)

基調講演における質疑応答

コーディネーター 周藤 亜矢子

基調講演者富田氏と参加者との活発な質疑応答が行われた。
(詳細は「研究年報 28 号」に記載)

.....

研究発表 I

「新型コロナウイルス (COVID-19) による学生の生活・学習 状況等

ライフスタイル変化についてのアンケート —学生 300 人調査から 中間報告—

四之宮 玲子 (日本大学)

新型コロナウイルスによる、大学生のライフスタイル変化や学業への影響、および独自の道を拓いていく方法や必要性について知見を得ることを目的として、アンケート調査を実施した。

調査内容 実施時期：2020 年 8 月 16 日～9 月 30 日。方法：インターネット Google フォーム無記名アンケート。対象：A 大学生。質問項目数：大項目 14 項目。回答者数：1～4 年生 合計 389 人。有効回答率：93.3%。

主な結果 家族関係において暴言・暴力を受ける等コンフリクトが増え、両親・保護者の失業によって退学を促されたという回答から、学生への精神面・経済面の支援が急がれる。またフレキシブルに対応できる“リフレーム行動群”の存在が判明した。P.ブルデューが掲げた新しいハビトゥス (習慣) =ニューノーマルは、アフターコロナ社会に定着していくと予測されている。これらが若者に定着するには多くの時間は要さないこと、そしてこの群は今後、困難を打破する潜在力をもつと分析した。

研究発表 II

「高校教科「情報」における情報の評価の検討」

高池 宣彦（常磐短期大学）

秘書の重要な役割の一つに情報収集がある。情報収集にあたっては、情報源・情報量・信憑性・時期・分析方法などの情報の価値を左右する要素を検討する、いわゆる「情報の評価」を行うことが求められる。しかし、現在のコロナ禍の状況においては、図書館の利用制限等で情報の選択が限られており、情報源がウェブ情報に偏ることが予想され、「情報の評価」の重要性がより大きくなっている。『高等学校学習指導要領解説情報編』では、科目「社会と情報」において、「情報の信頼性や信憑性を評価する方法の習得が極めて重要であることも理解させる」とある。そこで本発表は、高等学校で「情報の評価」がどのように教育されているかについて明らかにすることを目的とし、「情報」「評価」等の概念整理を行った上で、現行の学習指導要領に基づいて編集された高等学校教科書「社会と情報」の内容分析を行い、その結果として「情報の評価」の特徴を整理し、報告した。

研究発表 III

「コロナ禍の遠隔授業の進め方 ～ after コロナを見据えて」

栗栖 美帆（大阪国際大学短期大学部）

2020年度は新型コロナウイルス感染症により、全国の大学が遠隔授業を取り入れることを余儀なくされた。各大学、教員も慣れない環境の中、遠隔授業であっても高品質な授業が実施できるよう、奮闘した。

本発表では、筆者が前期に実施した二つの大学でのZoomによる遠隔授業での成功例を挙げ、オンライン授業で得られる多くの利点とまた今後の課題点を発表した。特に利点として、演習型のアクティブラーニングの授業スタイルが遠隔授業でも十分に実施可能であり、学生から大変好評であったことが各大学のアンケート結果から実証されたことを述べている。

アフターコロナでも対面授業と遠隔授業を組み合わせた授業形式が想定される。一教員として、常により質の高い効果的な授業を実施できるよう努め、今後の教育の現場の研究に繋げていく所存である。

2020(令和2)年度 通常会員総会 議事録

議事次第

1. 日時 2020(令和2)年 11月7日(土) 11:00～12:00
2. 方法 オンライン開催(大会事務局)
3. 議案

<報告事項>

1. 会員数の動向について
2. その他

<審議事項>

議案1 2019(令和元)年度 事業報告ならびに収支決算について

- (1) 2019(令和元)年度 事業報告
- (2) 2019(令和元)年度 収支決算報告
- (3) 2019(令和元)年度 監査報告

議案2 2020(令和2)年度 事業計画ならびに収支予算について

- (1) 2020(令和2)年度 事業計画(案)について
- (2) 2020(令和2)年度 予算(案)について

<その他>

4. 成立要件 出席者 21名 委任状 22名 計 43名 ※会則第20条5項
5. 議長 会長 平田 祐子 ※会則第20条6項

開会

藤村副会長より、定刻に総会を開会する旨の発言があり、続いて、総会成立要件について説明が行われた。総会出席者数及び委任状の総計が全会員数の過半数に達しており、成立要件を満たしているとの報告がなされた。その後、会則第20条6項により、議長を平田会長が務めた。

報告事項

1. 四之宮副会長より、会員数の動向および入退会者の状況について、下記の表の通り報告がなされた。

① 会員数

会員の種類	2019年度通常総会時	2020年度通常総会時
名誉会員	0名	0名
個人会員	68名	65名
学生会員	0名	1名
賛助会員	0名	0名
会員総数	68名	66名

会員の種別変更：個人1名（個人会員→学生会員）

② 入退会等状況（2019年度総会以降～2020年度総会時）

入会者：個人6名 木許智佳子 川本梨衣 北村雅昭 高池宜彦 栗栖美帆 三次亜紀子
退会者：個人7名 青木雅幸 矢野ちづる 田中伸代 所吉彦 福田洋子 北川宣子 原田昌洋
資格喪失者：個人1名 佐藤るか
物故者：個人0名

(敬称略)

2. その他

審議事項

議案1 2019(令和元)年度事業報告ならびに収支決算について

(1) 2019(令和元)年度事業報告 ……資料1-1～1-3 参照

四之宮副会長より、資料1-1～1-3に基づいて2019(令和元)年度(第28回全国大会含む)の事業報告がなされ、異議なく承認された。

(2) 2019(令和元)年度収支決算・監査 ……資料2-1～2-4 参照

東野会計理事より、資料2-1～2-4に基づいて2019(令和元)年度の収支決算報告がなされた。去る10月12日に飯塚監事および柚木崎監事が監査を実施し、収支決算が正確であり適切に処理されたことが確認された旨、報告がなされた。審議の結果、異議なく承認された。

議案2 2020(令和2)年度事業計画ならびに収支予算案について

(1) 2020(令和2)年度事業計画(案)について ……資料3-1 参照

四之宮副会長より、資料3-1に基づいて2020(令和2)年度の事業計画(案)について説明がなされ、異議なく承認された。

(2) 2020(令和2)年度収支予算(案)について ……資料3-2 参照

東野会計理事より、資料3-2に基づいて2020(令和2)年度の収支予算(案)について説明がなされ、異議なく承認された。

諸連絡

2021年度 第30回全国大会開催は、西日本支部が担当する。

また、編集委員の串田敏美先生(産業能率大学)と吉田智美先生(愛知学泉短期大学)が退任され、2020年度から北村雅昭先生(大手前大学)と伊藤理絵先生(岡崎女子短期大学)が編集委員に就任されたことが発表された。

閉会

議長により、12時に閉会が宣言され、散会した。

以上

資料1-1

(1) 2019(令和元)年度事業報告

1. 報告の事業年度

2019(令和元)年9月1日～2020(令和2)年8月31日

2. 報告の事業概要

① 2019(令和元)年10月12日 第28回全国大会 開催予定であったが天災のため中止

担当支部：西日本支部

会場：大阪市立大学 杉本町キャンパス 高原記念館

統一テーマ：「地域連携社会に貢献できる人材育成」

大会委員長：上田 知美

② 2020(令和2)年2月29日 ニュースレターNo.33 発行

広報統括理事：大塚 映

- ③ 2020 (令和 2) 年 8 月 1 日 研究年報 第 27 号発行 (84 ページ)
「研究ノート」1 編
「レポート」1 編
「大会報告」第 28 回全国大会 報告 基調講演 事例紹介 発表レポート
編集委員長 道添栄一
編集委員 串田敏美 吉田智美 河合真知

3. 支部研究会・ワークショップ

- ・東日本支部 合同支部会 1 回 (西日本支部会との合同遠隔) 開催
東日本支部長 笹瀬佐代子
- ・西日本支部 合同支部会 1 回 (東日本支部会との合同遠隔) 開催
西日本支部長 兒島 尚子

4. 役員会

- 理事会 13 回開催 (サイバー会議)
- 理事連絡会 多数開催 (サイバー会議)

5. 各種委員会

- I. 第 28 回全国大会委員会 1 回 サイバー会議多数開催 (担当 西日本支部)
- II. 第 29 回全国大会委員会 サイバー会議多数開催 (担当 東日本支部)
- III. 研究年報編集委員会 サイバー会議多数開催

資料 1-2

東日本支部会活動報告

東日本支部長 笹瀬佐代子

(1) 支部会

- 東日本支部会
- ・2 月～8 月多数開催 (サイバー会議)

(2) 合同支部研究会 (西日本支部との合同遠隔開催)

- 日時: 2020 年 8 月 15 日 (土) 10:00～12:00 (西日本支部会との合同遠隔開催)
- テーマ: 「遠隔授業の体験から学ぶ」
- 参加者: 18 名
- 今回は、Zoom によるオンラインにて、東西合同の支部会を行った。
- 活発な意見交換が行われた。

資料 1-3

西日本支部会活動報告

西日本支部長 兒島 尚子

支部会

(1) 西日本支部会

- ・7 月～8 月多数開催 (サイバー会議)

(2) 合同支部研究会 (東日本支部との合同遠隔開催)

- 日時: 2020 年 8 月 15 日 (土) 10:00～12:00 (Zoom を用いての研修会)
- テーマ: 「遠隔授業の体験から学ぶ」
- 参加者: 18 名

資料 2-1

2019（令和元）年度収支決算及び監査報告
一般会計収支決算・監査報告日本国際秘書学会
2019（令和元）年度一般会計収支決算書
(2019年9月1日～2020年8月31日)

(単位：円)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	1,395,666	研究年報発行費	100,694
東日本支部繰越金	20,000	印刷費	0
西日本支部繰越金	19,780	通信費	17,195
会員年会費	600,000	広報活動費	39,600
（個人会員〔含過年度分〕	552,000)	消耗品費	1,073
（学生会員	0)	会議会合費	6,600
（アソシエイト会員	48,000)	旅費交通費	15,720
雑収入	0	支部委託金	60,000
預貯金利息	11	雑費	0
		租税公課	0
		手数料	3,514
		分科会活動費	0
		特別活動費	0
		全国大会費用	77,380
		次年度繰越金	1,713,681
合計	2,035,457	合計	2,035,457

注) 第28回全国大会報告、各支部会計報告は含まれていない。

2020年10月5日

会計担当理事 東野 國子



監査報告

私どもは、日本国際秘書学会の2019(令和元)年9月1日から2020(令和2)年8月31日までの期間の関係帳票および会計報告を監査した結果、上記収支決算書が正確であることを認めます。

2020年10月12日

監事 飯塚 淳



監事 柚木崎 千春



資料 2-2

東日本支部収支決算・監査報告

日本国際秘書学会
2019年度 東日本支部 収支報告書
(2019年9月1日～2020年8月31日)

(単位：円)

収入の部		支出の部	
支部運営費	30,000	講師料	10,000
研究会参加費	0	会議費 (会場費・飲食代)	0
預貯金利息	0	交通費	0
		通信費	0
		消耗品費	0
		預貯金利息繰越金	0
		次年度繰越金	20,000
合計	30,000	合計	30,000

2020年9月18日

東日本支部長

笹瀬 佐代子



監査報告

私どもは、日本国際秘書学会の2019（令和元）年度 特別会計（東日本支部通常資金収支報告）会計関係帳票および会計書類を監査した結果、上記収支決算書が正確であることを認めます。

2020年10月12日

監事 飯塚 淳



監事 柚木崎 千春



西日本支部収支決算・監査報告

日本国際秘書学会
2019年度 西日本支部収支報告書
(2019年9月1日～2020年8月31日)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
支部運営費	30,000	講師料	10,000
研究会参加費	0	振込手数料	220
預貯金利息	0	預貯金利息繰越金	0
		次年度繰越金	19,780
合計	30,000	合計	30,000

2020年8月31日

西日本支部長 兒島 尚子



監査報告

私どもは、日本国際秘書学会の2019(令和元)年度 特別会計(西日本支部通常資金収支報告)会計関係帳票および会計書類を監査した結果、上記収支決算書が正確であることを認めます。

2020年10月12日

監事 飯塚 淳



監事 柚木崎 千春



資料 2-4

特別会計収支決算・監査報告

日本国際秘書学会
2019年度 第28回全国大会収支報告書
(2019年10月12日開催予定後中止)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
借受金	150,000	借受金返済	150,000
大会参加費	124,000	会議費	35,086
(会員 4,000×28=112,000)		印刷費	33,890
(ビジター 3,000×4= 12,000)		講師料	40,000
弁当代	25,000	通信費	19,600
(会員 1,000×25=25,000)		消耗品費	2,324
懇親会費	135,000	交通費	9,320
(5,000×27= 135,000)		大会参加費 返金	62,000
要旨集	2,000	(会員 2,000×28=56,000)	
会場費返金	5,000	(ビジター 1,500×4= 6,000)	
		弁当代 返金	25,000
		(会員 1,000×25=25,000)	
		懇親会費 返金	135,000
		(5,000×27= 135,000)	
		返金時振込手数料	6,160
全国大会費用	77,380		
合計	¥518,380	合計	¥518,380

2020年4月10日

会計担当 西村この実 

監査報告

私どもは、日本国際秘書学会の2019(令和元)年度 特別会計(第28回全国大会収支報告)会計関係帳票および会計書類を監査した結果、上記収支決算書が正確であることを認めます。

2020年10月12日

監事 飯塚 淳 監事 柚木崎 千春 

2020(令和2)年度事業計画ならびに収支予算案について

(1) 2020(令和2)年度事業計画

1) 事業年度

2020(令和2)年9月1日～2021(令和3)年8月31日

2) 事業概要

- ① 2020(令和2)年11月7日(土) 2020年度通常会員総会の開催
- ② 2020(令和2)年11月7日(土) 第29回全国大会開催
大会開催担当支部：東日本支部
開催方法：オンライン開催(大会事務局)
大会委員長：笹瀬佐代子(常盤短期大学)
- ③ 2021(令和3)年2月 ニュースレターNo.34発行
- ④ 支部会・ワークショップ
東日本支部 2回程度開催予定
西日本支部 2回程度開催予定
- ⑤ 役員会
理事会兼役員会 数回開催
- ⑥ 各種委員会
 - ・第29回全国大会委員会 1回開催、随時サイバー会議の開催
 - ・第30回全国大会準備委員会 開催
全国大会に向けての準備委員会を発足し、スケジュールを立てる。
委員長・副委員長を選任し委員の各担当を決定する。
大会事務局を設置する。
 - ・研究年報編集委員会 随時サイバー会議の開催

資料 3-2

(2) 2020(令和2)年度予算(案)について

(2020年9月1日～2021年8月31日)

収入の部			支出の部		
科目	2019年実績	2020年予算	科目	2019年実績	2020年予算
前年度繰越金	1,395,666	1,713,681	研究年報発行費	100,694	130,000
東日本支部繰越金	20,000	-	印刷費	0	0
西日本支部繰越金	19,780	-	通信費	17,195	20,000
全国大会収益	0	0	広報活動費	39,600	100,000
会員年会費	600,000	550,000	消耗品費	1,073	10,000
雑収入	0	-	会議会合費	6,600	30,000
預貯金利息	11	-	旅費交通費	15,720	60,000
			支部委託金	60,000	60,000
			雑費	0	5,000
			手数料	3,514	3,000
			租税公課	0	1,000
			分科会活動費	0	10,000
			予備費	77,380	100,000
			次年度繰越金	1,713,681	1,734,681
合計	2,035,457	2,263,681	合計	2,035,457	2,263,681

支部だより

【東日本支部】 東日本支部長 笹瀬佐代子

◆活動計画

- ・東日本支部活動予定
日程：2021年8月予定
場所：東京都内

◆会員の皆様

昨年の東日本主催の第29回全国大会では、ご参加を頂きありがとうございました。大会初のオンライン開催となり、遠方の方々とも映像で変わらぬお姿をお目にかかることができましたことを感謝いたします。

この度のコロナ禍は、ビジネス環境が大きく変わる要因となりました。研究の一助となる活動機会を設けることができると考えております。よろしくお願ひいたします。

【西日本支部】 西日本支部長 兒島尚子

◆活動計画

- ・2021年度全国大会
日程：2021年11月中旬 日曜日の予定
場所：大阪樟蔭女子大学（東大阪市）

- ・西日本支部活動予定
日程：2021年8月予定
場所：大阪市内予定

◆会員の皆様

一昨年秋、西日本支部主催の第28回全国大会は、台風により中止となってしまい、また昨年秋の第29回全国大会は、Zoomでの開催となりました。新しい試みで、とても勉強になり、成功裏に終わりましたが、今年はぜひ皆様と実際にお目にかかり、活発に意見を交わしたいと存じております。コロナウィルスの収束を心からお祈りいたしております。

事務局からのお知らせ

第30回全国大会 予告

開催日時：2021年11月中旬頃（決定次第、HPにてお知らせします）

開催会場：大阪樟蔭女子大学（大阪府東大阪市）

西日本支部主催（大会委員長・児島 尚子）

◎JAISS研究年報の既刊号を販売しています。

購入希望の方は本部事務局までご連絡ください。（1部1,000円）

◎会員情報の変更届について

ご住所、所属機関、連絡先等のご変更が生じましたら、本部事務局までメールでご連絡ください。

本部事務局 E-mail: jaissjimukyoku@gmail.com

◎新入会員をご推薦ください。

入会申込書は、学会ホームページからダウンロードできます。

<http://www.jaiss.sakura.ne.jp/nyukai.htm>

参考〈入会資格に関する内規〉

入会資格は、次に掲げる要件のうち、いずれか一つを満たすこととします。

- (1) 4年制大学卒以上の学歴および専門分野における研究業績を有すること。
- (2) 4年制大学卒業以上の学歴で研究業績がない場合は、実務経験3年以上であること。
- (3) 短期大学卒業の場合は、実務経験5年以上であること。
- (4) 高校卒業の場合は、実務経験7年以上であること。

日本国際秘書学会 発行

本部事務局

〒467-8610 名古屋市瑞穂区汐路町3-40

名古屋女子大学短期大学部 秘書学研究室内

Tel : 052-852-9426 (直通)

Fax : 052-852-7470

Eメール: jaissjimukyoku@gmail.com

ホームページ: <http://www.jaiss.sakura.ne.jp/index.htm>